

令和6年12月10日
愛知県上海産業情報センター
浅井 一志

一般調査報告書
STATION Ai の PR について

11月、中国では先月の国慶節の反動と年末年始などの休みの狭間から、旅行などの需要は一服する時期ですが、愛知県上海産業情報センターにとっては忙しい1か月となりました。昨年と同じ時期に報告しましたが、11月5-10日は中国国際輸入博覧会（「輸入博」）があり、またその会期後半には遼寧省瀋陽市、22-24日には上海市で、それぞれ旅行関連の展示会などのイベントがありました。

前回までのレポートにて繰り返し強調させていただいております通り、世界情勢や日中情勢が混沌とする中、より良い日中関係の構築のためにはビジネスや観光など理由の如何を問わず、人的往来を増やすことが極めて重要であるという理解の下、当事務所としてこれら行事に全て愛知県ブースを出展することとしました。

さて、この11月の一連のイベントラッシュの直前、10月31日に、愛知県が力を入れて整備してきたスタートアップ支援拠点「STATION Ai（ステーション・エーアイ）」が名古屋市内にてオープンしました。今回は、このSTATION Aiと、当地におけるそのPR活動について報告したいと思います。

【STATION Ai 建設の背景に、製造業の将来に対する強い危機感】

まず、STATION Ai についてご紹介したいと思います。STATION Ai は、愛知県が名古屋市内に建設した国内最大級のオープン・イノベーション拠点です。ここでは、スタートアップの創出育成およびオープン・イノベーションの促進を目的に、様々な支援サービスを提供しています。700社に及ぶ国内外のスタートアップ、パートナー企業、ベンチャーキャピタル（VC）等の支援機関や大学等がSTATION Ai に参画し、新規事業創出に取り組んでいます。

STATION Ai には、スタートアップをはじめとする新規事業創出に取り組む人々のためのオフィス、フィットネスジム、テックラボ（モノづくり系のスタートアップや事業会社による試作品の製作・検証が可能な設備）に加え、一般の方も利用可能なカフェ・レストラン、ホテル、イベントスペース、あいち創業館（愛知県にゆかりのある、革新的な事業を興した創業者・経営者の業績等を伝える施設）が併設されています。

10月31日のグランドオープン時には、およそ500社のスタートアップと200社のパートナー企業（スタートアップとの協業を希望する事業会社）が入居することができました。合計700社という入居企業数は日本最大級と自負していますが、これに満足することなく、2029年までにスタートアップ1,000社の集積を目指し、PR活動を継続しています。愛知県ではSTATION Ai を有力なツールとして、日本経済を牽引する産業の集積地である愛知・東海エリアの既存産業と新規事業を融合させ、新たな価値を生み出すハブとなることを目指します。

STATION Ai 全景



(愛知県スタートアップ推進課より)

愛知県が STATION Ai 事業を開始するきっかけとなったのは、当地域の経済が自動車を中心とする製造業に大きく依存していることです。2024 年 7 月 26 日に発表された「2022 年経済構造実態調査結果」の「製造品出荷額等」において、愛知県は 1977 年以来 46 年連続となる全国第 1 位を獲得しました。2022 年の愛知県の製造品出荷額等は、前年から 9.4% 増加し、52 兆 4,098 億円で過去最高額となりました。このことは愛知県が日本の製造業の中心であることを物語っている一方で、製造業の状況如何で愛知県の経済が大きく影響を受けることを示してもいます。

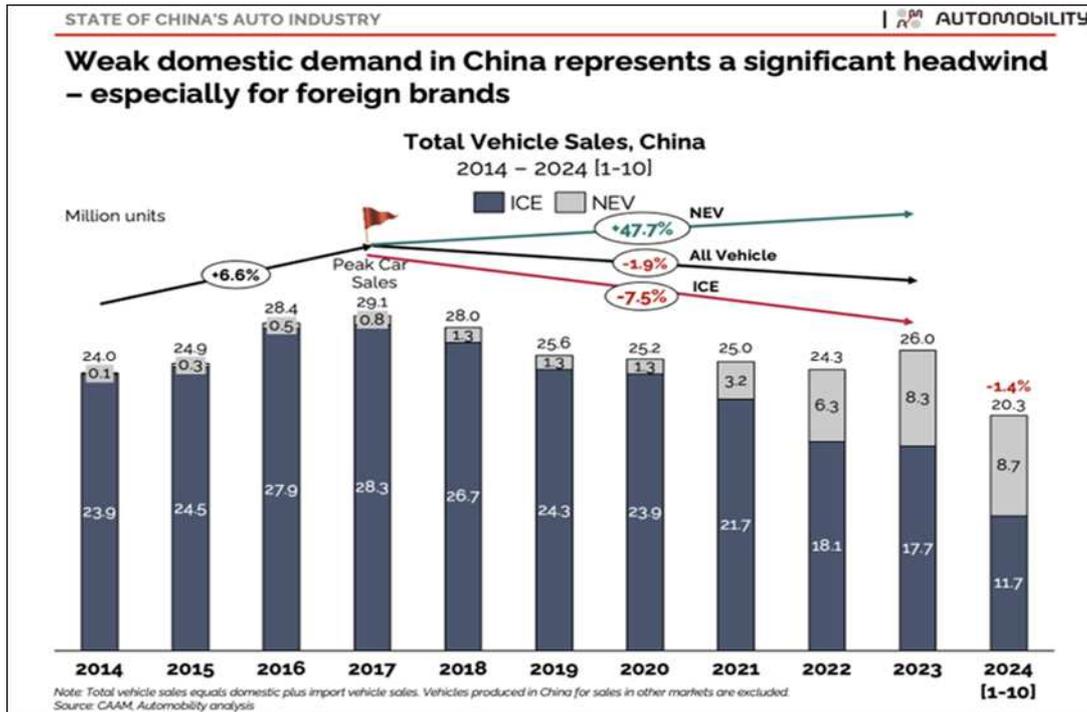
愛知県は製造品出荷額において圧倒的な存在感を放つ



(出所：「2022 年経済構造実態調査」より愛知県スタートアップ推進課作成)

言うまでもありませんが、愛知県の製造業の中心には自動車産業があり、その自動車産業はこれまでの報告でもご紹介している通り、100年に一度といわれる大変革期に差し掛かっています。その最前線ともいえるのが今や世界最大の自動車市場でもある中国で、電気自動車やプラグインハイブリッド車、これら「新エネルギー車」の勢いは、下記の図にある通り、加速しています。

世界最大の自動車市場・中国で進むエンジン車離れ



※自動車全体の販売比率として、ICE（エンジン車）が前年比7.5%減と大幅に減少する中、新エネルギー車は同47.7%増と勢いが加速している

（出所：Automobility 社作成）

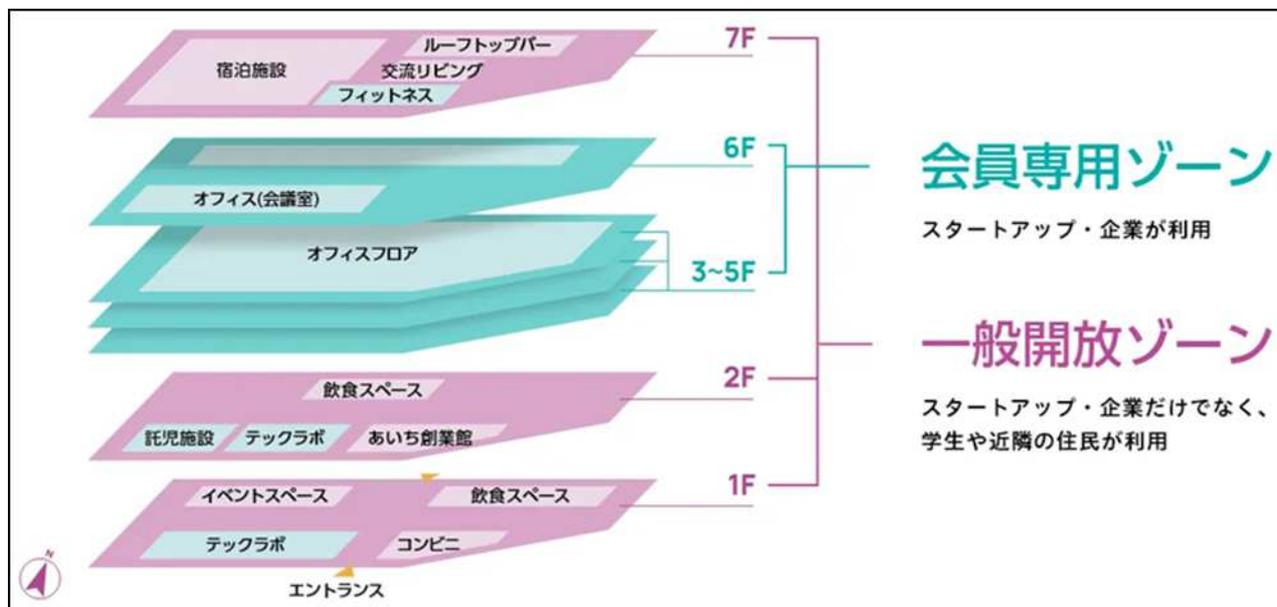
昨今、世界の自動車市場で純電気自動車（BEV）の販売が鈍化していることは報道されている通りですが、過去の報告でも述べた通り、自動車の価値の中核はパワートレイン（電気モーターなのかエンジンなのか）ではなく、自動車内の先端ソフトウェアの能力であると思われ、この点において中国の自動車メーカーやそれらメーカーと「オープン・イノベーション」という形で自由に、柔軟に協業する優れたソフトウェア企業が、魅力的な新型自動車の登場に大きな役割を果たしていると考えられます。

このようなオープン・イノベーションの時代には、従来型の自動車産業の定番だった「系列各社による擦り合わせ（クローズド・イノベーション）」では、斬新なアイデアや先端技術が生まれにくいのが否定することのできない現実で、STATION Aiは正にこうした点を克服し、愛知県、ひいては日本の製造業全体に新たな価値を提供すべく、機能していくことが求められると思います。

【STATION Ai : 仕事、生活、交流など全てがこの施設内で完結可能】

STATION Ai の内部はどのようなになっているのでしょうか。まずは以下をご覧ください。

入居企業だけではなく、一般の方々にも開放



(STATION Ai WEB サイトより)

STATION Ai の中心となるのがオフィススペースです。建物の3~6階を占め、企業はここで業務を行い、交流します。企業は自社の好みのスタイルで入居することが可能です。



個室



固定席



コワーキングスペース

(STATION Ai WEB サイトより)

これ以外に、STATION Ai 入居企業や関係者以外の一般の方でも利用可能なのが「一般開放ゾーン」で、ここにはレストラン、イベントスペース、ホテルなどが入り、STATION Ai の雰囲気を感じながら日常生活の一部を過ごすことが可能です。例えば、STATION Ai の入居企業との協業を望む企業や個人が一般開放ゾーン内の飲食店で入居企業と一緒に食事をとったり、遠方からの施設訪問であればホテルに宿泊し、同じフロアにあるルーフトップバーで入居企業と交流を深めることも可能です。こうした「非

日常的な日常」は双方の協業やオープン・イノベーションに向き合う気持ちを高め、より良い業務成果の実現に寄与するのではないかと考えます。

STATION Ai の最上階ルーフトップバーとホテル客室の一例



(STATION Ai WEB サイトより)

【地方自治体として異例の「輸入博での産業 PR」】

STATION Ai の PR のため、愛知県では所管である経済産業局海外連携推進課が主体となり、11月5-10日に開催された中国最大級の総合展示会である「中国国際輸入博覧会（輸入博）」で、ブースを出展しました。通常、日本の地方自治体が出展するのは観光関連の展示会がほとんどのため、輸入博のような産業交流を主眼とする展示会での出展は珍しく、特色ある出展となりました（なお、愛知県は昨年11月に深圳で開催された「ハイテクフェア」においても、STATION Ai の PR のためブース出展しています）。

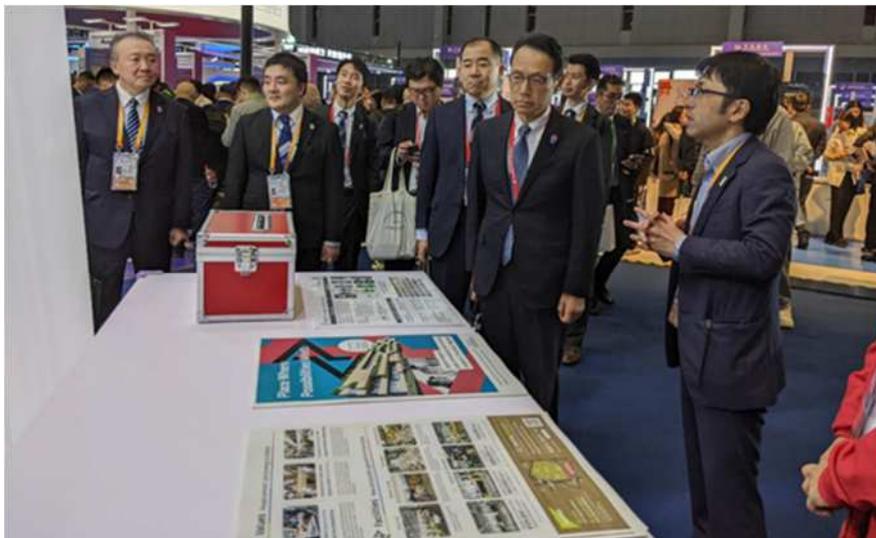
ブースを訪問した多くの方は、「国内外の企業問わず、入居できるのか」「具体的な入居費用は」「色々な入居形態があるが、どの形態に空きがあり、どれがすでに満席なのか」などといった具体的な質問が多く寄せられ、一部は「実際に訪問し、状況を視察したいが、どのような手順を踏めばよいか」といった質問もでるなど、手ごたえを感じる出展経験となりました。

「STATION Ai ブース」の様子



また、北京から本展示会を視察に訪れていた金杉駐中国大使も、岡田在上海総領事・大使と共にブースを訪問され、STATION Ai に関する理解を深められました。

STATION Ai の説明を受ける金杉駐中国大使（右から 2 人目）と岡田在上海総領事・大使（左端）



(愛知県上海産業情報センター撮影)

このほかに、在中国の日本企業や自治体、在上海スペイン総領事館など第三国の在外公館関係者など、実にバラエティ豊かな来訪者がありました。そのうち一部の在外公館からは、ブースに来訪した館員からの報告を受け、その上司がより詳細な説明を求めたとのことで、筆者が実際に同館を訪問し、詳細な案内を行いました。

このように、STATION Ai に入居する可能性がある企業に直接 PR するのと同様に、広い人脈や企業とのネットワークを持つ国内外の方々に STATION Ai の存在と機能、期待される役割を説明することができたのは、この展示会出展の大きな成果だと認識しています。

【愛知県への進出に関心を示す中国企業、投資会社にプレゼンテーションを実施】

展示会出展での大々的な PR と同時に、11 月 20 日には、ジェトロ上海などの協力を得て、愛知県への投資に関心を持つことを表明している企業や投資会社を集め、筆者が愛知への投資の魅力を伝えるプレゼンテーションも行いました。このプレゼンテーションでは愛知県全体の魅力を伝えるのですが、説明の目玉として STATION Ai の紹介を行った結果、複数の参加企業から既に日本への出張と STATION Ai の視察の依頼が届いています。オープン直後というタイミングにも恵まれましたが、想定より多くの企業などが関心を示してくれました。

その際のコメントとして、やはり STATION Ai が他の地方とは一線を画す施設で目立つこと、製造業とのコラボレーションを目指すスタートアップなどには、東京以上に愛知という環境が魅力的であるとのことでした。さらに、STATION Ai 内に進出すれば、初期投資が抑えられるだけでなく、地元の有力な事業会社（「パートナー企業」）と自然体でコミュニケーションが図れ、一石二鳥であることなどが、大

きな魅力であるとのことでした。

愛知県投資環境 PR 会議の様子



(愛知県上海産業情報センター撮影)

【STATION Ai：製造業の将来に、自治体自らが灯した希望の光】

当センターでは、これら展示会以外でも、観光系の展示会でも愛知ブース出展の際、STATION Ai の PR を行うように体制を整えました。実際、11 月中に開催され、愛知ブースを出展した観光交流の展示会「上海旅游博覧会 (CITM)」においても、来場者の一部から STATION Ai について説明を求められ、後日個別に当該企業と面談し、各種の情報提供を行っています。

愛知県はかつて、既存の産業や企業が独自の企業グループを形成し、その中での情報交換などによって各種の改善が行われていくビジネス慣行を「ベンチャー不毛の地」などと揶揄されることもありました。この STATION Ai の成立と、躊躇なくオープン・イノベーション推進に邁進する行政の姿勢を見るに、時代の変化を感じずにはられません。

冒頭でも述べました通り、愛知県を代表する産業である自動車産業が大きな変化の渦中にあります。その荒波を乗り越え、日本の産業首都としての愛知県の未来が、これまで同様に輝き続けるため、自治体が自らリスクを負って灯した希望の光こそが STATION Ai であると、筆者は考えています。

当センターでは STATION Ai を 1 つの切り札的なツールと位置づけ、今後もその PR を全力で続けてまいります。

参考 1

STATION Ai WEB サイト

<https://stationai.co.jp/stationai>

あいちスタートアップ戦略について

(STATION Ai 設置を含む、愛知県が推進するスタートアップ支援関連事業の総合情報)

<https://aichi-startup.jp/about/>

参考 2：最近の中国内の主な動き

- 11月1日 中国国家统计局と中国物流購買連合会の発表（10月31日）によれば、2024年10月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）は50.1だった。前月から0.3ポイント上がり、好不況を判断する節目の50を6カ月ぶりに上回った。生産と受注が回復し、全体を押し上げた。
- 11月6日 中国国務院（中央政府）は同日、ウィンタースポーツの活性化を通じて「冰雪経済」の規模を2030年までに1兆5,000億元（約32兆1,300億円）にすると発表した。ウィンタースポーツの普及強化やイベントの開催増で観光需要を喚起する見込み。
- 11月9日 中国国家统计局の発表によれば、10月の消費者物価指数（CPI）は、前年同月比で0.3%上昇した。上昇率は9月から0.1ポイントの鈍化となった。野菜や豚肉などの食品価格の値上がりやや落ち着いたほか、ガソリンが値下がりした影響も受けた。9カ月連続のプラスとなったが、2カ月連続で上昇率が鈍化した。
- 11月15日 広東省広州市の自動車展示会「第22回中国（広州）国際自動車展覧会（広州モーターショー）」が15日、開幕した。出展車両の約4割を「新エネルギー車（NEV）」が占め、各社が電気自動車（BEV）やプラグインハイブリッド車（PHEV）の最新モデルを披露。日本勢は中国市場で販売が落ち込む中、中国企業との連携を強化し、需要が高まる「智能化（スマート化）」技術をアピールした。
- 11月20日 中国に進出している日系企業などで行う中国日本商会は、在中国の日系企業の景況感に関する調査結果を発表した。2024年の景況予測を前年に比べて「悪化」と「やや悪化」と回答した企業は64%となり、「改善」と「やや改善」の11%を大幅に上回った。悪化の比率は8月発表の前回調査から4ポイント上昇した。
- 11月30日 中国国家统计局と中国物流購買連合会の発表によれば、11月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）は50.3だった。前月から0.2ポイント上がり、好不況を判断する節目の50を2カ月連続で上回った。経済の安定に向けた一連の政策による効果が押し上げた。

愛知県上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。